

【高等学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	佐賀県立堀野高等学校
-----	------------

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	「分校舎制」を維持するため、行事の精選はもちろんのこと合同開催も行ってきた。しかし、高校を受換する生徒数の減少は止まらず、志願倍率の低下傾向は喫緊の課題となっている。地域から必要とされる「学校」として携っていくためにも、さらなる両校舎の生徒・職員の結束や協力が必要であり、地域課題の解決に向けた取り組みは必須である。	
------------------	--	--

2 SAGAスクール・ミッション 学校教育目標	○工業科、総合学科が併置された「ものづくり教育・ひとづくり教育」を実践する高校として産業社会の活性化に対応できる専門的な知識・技術や、これからの社会で生き抜くために必要な力を育成します。 ○校舎制の利点を活かして地域社会と深く関わりながら、地域の活性化に貢献できる産業人を育成します。
----------------------------	---

3 スクール・ポリシー	アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	グラデュエーション・ポリシー
	○お互いを尊重しながら個性を伸ばし、地域とともに歩み、幅広い知識と高度な技術を身に付けて社会に貢献できる生徒を求めます。 ○高い目標を持ち、学校の核として積極的に活動することができ、部活動を通して学校の活性化に貢献できる生徒を求めます。	○地域社会に開かれた教育課程。 ○5つの学習領域(機械科・電気科・建築科・社会福祉系列、商業系列)の専門性の相乗効果を生み出す教育課程。 ○地域社会に密着したキャリア教育の推進。	○若い情熱で「躍動」し、全力で志の達成に向けて邁進する生徒を育成します。 ○専門的知識・技能の習得を通して、心身ともに「躍動」された生徒を育成します。 ○基本的な生活・学習習慣を身に付け、人間性豊かな「敬愛」の心を持つ生徒を育成します。

4 本年度の重点目標	1 「校舎制」のメリットの最大化を通して、中学生および保護者から選ばれる学校づくりを目指す。 2 生徒の個性・特性に応じた学習指導および生活指導を実践する。また、地域社会に貢献する高い専門性を有する生徒を育成する。 3 生徒の社会的自立に向け、主体的に学ぶ力、資格、専門的な技能や高い学力を身につけさせる。 4 社会的自立に向けた人間関係力の育成のため、「両校舎 合同行事」の充実を図る。
------------	---

重点取組内容・成果指標				最終評価		
(1)共通評価項目						
評価項目	取組内容	重点取組 成長指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価
				達成度 (評価)	実施結果	
●学力の向上	○基礎学力の向上 ○「わかる授業」の実施	○家庭学習時間の調査・呼びかけを行い、毎日の家庭学習の充実を目指す。 ○小テスト(10点満点)を年間を通して実施し、クラスの平均が「7点以上 70%」を目指す(塩田)。 ○新テスト(20点満点)を年間を通して実施し、クラス平均点が「14点以上 70%」を目指す(端野)。 ○Formaを利用した授業アンケートにより、わかる授業の実施率「80%」以上を目指す。 ○教員同士による授業研究を行い授業の質を高める。	・定期的な家庭学習の記録調査を実施する。 ・小テスト、新テストの前に事前課題を準備し、生徒の自宅学習を行う時間確保を図る。 ・わかる授業の実践のため、教師の日々の授業の工夫と改善に努める。 ・わかる授業の実践のため、Formaを利用したアンケートをもとに教師の日々の授業の工夫と改善に努める。 ・相互授業参観期間を年間2回設ける。	A	・小テストの全年生平均点は国語72点、数学63点、社会64点、英語54点と目標値に届かなかった。新テストの全年生平均は国語148点、数学158点、英語188点と目標値に達した。しかし、家庭学習が定着している人とそうでない人の差があると思われる。 ・昨年度から、教師がお互いの授業を参観しやすくするために授業参観シートを作成し気づきや感想、アドバイス等を記入してもらい授業担当者に授業に活かすようにした。 ・11月に実施した授業アンケートは役に立ち力がつく授業と回答した生徒が90%であった。	A
	◎探求心の向上	○専門教科で資格取得指導を行い、前年度合格率の「10%UP」を目指す。	・各専門教科で積極的に資格取得指導に努める。 ・昨年度を振り返り、教科で課題を共有し、指導を行う。	A	・令和6年度の3年生は全員が第2種電気工事士に合格した。(電気科) ・第1種電気工事士合格率70.8%高水準を維持。(電気科) ・基礎習熟検定は前年度より合格率が30%アップ。機械系は1/3のアップであった。他の資格は合格率が目標に達していない状況である。(機械科) ・2級建築施工管理技士検16、建築CAD検定4級63%、初級CAD検定22%、パソコン利用検11%、計算技術3級68%、パソコン利用3級31という状況。合格率が目標に達していない状況である。(建築科) ・介護福祉士国家試験受験に向けて、毎日課題や模擬試験に取り組み、3年生は国家試験に臨み、合格線を取ることができた。(社会福祉系列) ・2年ぶりに全合格検定三科目以上1級合格者が2名出たことは大変良かった。また、全商簿記実務検定1級取得者が昨年度の1名から2へと大幅に増加した。1月全商簿記実務検定の全体合格率は73%、全商簿記検定検定は68%であった。その中で機械科等と異なり、簿記3級は100%が合格するなど、担当者の粘り強い指導が功効し、多くの生徒がこれまでない達成感を得ることができた。(情報ビジネス系列、観光・流通系列、商業系列)	A
	○ICT機器を活用した授業の実施	○電子黒板・学習用PCの教育活動における利活用「70%以上」を目指す。	・校内研修を通し、全職員の取り組みを共有する。 ・「オンライン授業」の実践に取り組み。 ・「IDX加速化事業」への取り組みを行う。	A	・「オンライン授業」に関する取り組みについては、該当するクラスで実施することができた。・「IDX加速化事業」に関しては、計画的に数人ずつ進んできたものの、講演等を実施することができた。・講演会、会議など、校舎間でオンラインでの実施ができた。	A
	◎心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○人権・同和教育の全体計画に基づいて、授業を行った教員「100%」を目指す。 ・「情報」「HR活動」において情報モラル教育、道徳保障、人権教育を実施する。	・人権・同和教育の全体計画を実施する。 ・「情報」「HR活動」において情報モラル教育、道徳保障、人権教育を実施する。	B	・計画していた講話・HR活動をすべて実施することができた。今後も継続して生徒の人権意識を高める指導が必要と思われる。 ・各研修会については、各科に参加者を割り当てることで、多くの職員が参加し人権・同和教育の充実が図ることができた。
●健康・体づくり	●いじめの未然防止・早期発見・早期対応に向けた取組の充実	●法によるいじめの正確かつ積極的な認知及び適切な対応の「100%」を目指す。	・いじめの認知・発知に対する対応マニュアルを見直し、全職員に周知する。 ・いじめの対応等についての研修・会議を「年3回」以上行う。	B	・「年3回のいじめアンケート」の結果から、いじめの認知・発知や事後の指導など組織的に対応できた。 ・いじめの対応について、校内研修を行い、対応を確認することができた。	A
	◎ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動	○「佐賀県に誇りや愛着を感じる」「どちらかというと感じる」と回答する生徒「90%」以上を目指す。	・各地域の郷土学習資料や「佐賀語リ」等を活用した授業に取り組み。	B	・「さがを誇りに思う教育推進事業」講演会を実施し、実施後のアンケート内「佐賀県に誇りや愛着を感じる」「どちらかというと感じる」の割合が90%を超えることができた。	A
	●「望ましい生活習慣の形成」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○朝食をとって登校する生徒「90%」以上を目指す。 ●「健康に良い食事をしている」生徒70%以上を目指す。	・生活状況調査、食に関する意識調査を実施する。 ・食育だよりを年間3回以上発行する。 ・保健だよりを年間10回以上発行する。 ・健康診断結果に基づく早期治療の指導を徹底する。	A	・健康に良い食事をしている生徒の割合が塩田校舎で86.2%、端野校舎で85.4%で、目標の70%を超えることができた。食育だよりを計画通りに発行し、生徒の食への関心を高めた。 ・朝食をとって登校する生徒は塩田校舎で90.8%、端野校舎で81.8%だった。働きかけ方が今後の課題である。 ・歯科の受診状況調査では受診率39.4%。自分が受診対象者であるかどうか覚えていない生徒も多く、来年度は個別指導を強化していきたい。	A
	○健康の保持増進のための体力向上	○健康・体づくりプランを実行して、健康保持・増進や体力の向上を目指す。 ○新体力テストで各生徒が「5点の得点UP」につなげるために、体づくり運動を毎学期取り入れる。	・新体力テストを実施する。 ・塩田校舎は「85%」、端野校舎は「80%」以上の部活動加入率を目指す。	A	・体力テストの結果を見ると体力が確実に向上していることが見られた。(塩田校舎) ・運動部活動に加入している生徒は体力の向上がみられた。体育授業時に体づくりの要素を取り入れた準備体操を徹底し、体力の向上を図る。(端野校舎)	A
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校時間の削減	○教育委員会規則に掲げる時間外在校時間の上限を遵守し、前年度より30分削減する。	・「定時退勤日+1」を設定する。 ・「学校閉庁日」の設定。 ・「部活動休業日」の設定。	B	・勤務時間外平均勤務時間はだいぶ低くなった。今後も定時退勤推進や業務改善に向けて継続検討を行い、組織的取り組みで時間外勤務削減を目指す。	B
	○学校行事の精選と効率的運営	○講演会等の行事の精選を行う。 ○両校舎で実施する行事の検討を行う。	・合同開催できる行事を「3つ以上」実施する(開校記念行事、文化祭、3学期クラスマッチなど)。 ・事前に主担当で行事の打ち合わせを行い、計画的に実施できるように連携する。	A	・合同開催の学校行事についてだいぶ精査できているが、まだ検討の余地がある。残りについては、次年度の検討課題である。	A
	○支援を必要とする生徒に対して、有効な支援を行う。	○支援が必要な生徒に対して、「100%」支援を行う。	・中学校からの申し送りを精査し、各学年から「現状」把握することで、有効な支援を個別に実施する。	B	・職員に対し、支援が必要な生徒調査を実施し、支援が必要な生徒の把握ができた。 ・中学校からの申し送りが少ない生徒もあり、支援の在り方が今後の課題である。	A
	●特別支援教育の充実					
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目						
評価項目	重点取組内容	成長指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価
				達成度 (評価)	実施結果	
○進路実現100%	○生徒の希望進路への実現	○キャリア教育の充実のための校外研修を行う。	・外部からの専門技術者を講師として招聘する。 ・学校外での就労体験(インターンシップ等)の推進を行う。	A	・塩田校舎では「キャリア教育とインターンシップ」、端野校舎では進路希望別の「インターンシップとオープンキャンパス」が実施され、将来の進路選択に役立つことができた。	A
○身だしなみ指導とマナーアップ	●社会人として必要な身だしなみ、挨拶の質の向上を図る。	○すべての授業、教育活動で身だしなみ指導、挨拶指導を実施する。 ・授業の前に身だしなみチェックを行う。 ・挨拶指導を推奨する。	・登校時の身だしなみ指導、挨拶指導を毎日行う。 ・授業の前に身だしなみチェックを行う。 ・挨拶指導を推奨する。	A	・平常の授業など学校生活全体を通して、身だしなみ指導を行うことで、TPOに応じた装いができている。 ・キャリア学習教育を通して、挨拶の重要性を理解できており、主体的に挨拶ができていた。	B
○校舎制による円滑な学校運営	○両校舎間の連携	○分掌業務や部活動指導で、「連携が取れた」と回答する職員「85%以上」を目指す。	・合同会議やワーキンググループにより、職員間で合意形成・共通理解を図る。 ・学校行事や部活動など両校舎の一体感を醸成する活動を行う。	B	・両校舎間の連携は、年度初めより高まった。また、校舎行事も両校舎で実施したため、次年度は更に連携は深まる。 ・学校行事においては、引き続き調整中である。	B
○魅力と活気ある高校づくり	○両校舎の生徒が享受できる教育サービスの均一化を図る。 ○生徒の安心・安全を確保する。	OPTA協会の参加率(委任状を含む)が90%以上になるように取り組む。 OPTA活動の活性化を図る。 ○メール配信サービスを使い、保護者との連携が迅速にとれるようにする。	・授業参観を含め、学校での活動を広報し、参加を促す。 ・両校舎における活動内取組(広聴誌等)のすり合わせを行う。	A	・年間を通して、コロナ禍以降のPTA活動が定着してきた。保護者にもメッセージなどによる案内をおくり、できる限り参加してもらったことができた。また、校舎の雰囲気による一体感の醸成という課題は続くが、少しずつ充実したPTA組織となっている。	A
	★◎SAGAスマートーニング(県指定)に取り組む。	○「自分の学校を中学生に勧めることができる。」という生徒の割合「78%」、教職員の割合「85%」を目指す。 ○ルーブリック評価で「地域に対する愛着を持ち、地域に対する課題の解決に貢献したい」と思う生徒を「85%」作る。	・唯一無二の誇り高き学校として本校の魅力を高め、県内外からの志願者を増加させるとともに、社会にとって有用な人材の育成、輩出を目指すことを目的として、地域・企業・大学等と連携し、年間を通して学校の魅力化を図る。	B	・ルーブリック評価で「地域に対する愛着を持ち、地域を誇り愛する」という意識が醸成され、地域課題の解決に貢献したいと思う生徒は80%であった。 ・学校魅力強化委員会を3回実施	A
●…風共進 ○…学校独自 ●…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり						
6 総合評価・次年度への展望				・いじめの未然防止・早期発見・早期対応に向けた取組の充実について、更に法によるいじめの正確かつ積極的な認知及び適切な対応に努めていきたい。 ・業務改善・教職員の働き方改革の推進を更に加速化し、次年度は完全定時退勤日の実施に向け取り組みたい。 ・次年度は両校舎の一体感を十分感じられるよう調整を行い、唯一無二の学校づくりに繋げていきたい。		